

No	テーマ	学修到達目標	内容	課題
第1講	第1課 ことばと表現を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同音異義語、同訓異義語の違いを分析し、文脈に応じて適切に選択できる。</li> <li>・慣用表現、四字熟語、故事成語を使用した文章を評価し、適切な使用法を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同音異義語、同訓異義語</li> <li>・現代仮名遣い</li> <li>・慣用表現、四字熟語、故事成語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1課のI同音異義語・同訓異義語からⅢの慣用表現・ことわざ・故事成語までの問題を解く。</li> <li>・与えられた文章の中から同音異義語や同訓異義語を見つけ、その意味や背景について簡単なレポートを作成する。</li> </ul>
第2講	第1課 IV 文の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の組み立てや構造を理解することができる。</li> <li>・既存の文章に対して、文の組み立てや構造を分析することができる。</li> <li>・最も効果的な文の組み立てや構造について、考え出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語の関係</li> <li>・修飾語と被修飾語の関係</li> <li>・読点・接続詞・副詞の用法</li> <li>・助詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1課のIV文の構造とVの助詞までの問題を解く。</li> <li>・与えられた文章を分析し、文の構造や助詞の使い方を評価するレポートを作成する。</li> </ul>
第3講	第3課 敬語・敬意表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語、敬意表現を身につけ、適切に使うことができる。</li> <li>・敬語、敬意表現の背景を分析し、適切な文脈での使用を評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面にふさわしい敬語表現</li> <li>・尊敬語・謙譲語・丁寧語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3課の問題を解く。</li> <li>・与えられたシチュエーションに合わせて、適切な敬語や敬意表現を用いて文章を作成する。</li> </ul>
第4講	対面授業 小論文1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文の目的と特徴が理解できる。</li> <li>・小論文の目的や特徴をもとに、新しいテーマや視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文とは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論説文や新聞の社説などを読み、関心のあるテーマを探</li> </ul>

		からの小論文の構想を考えることができる。		す。 ・論説文や新聞の社説から、主張や論点を抽出し、それに対する自身の意見や考えをまとめる。
第5講	対面授業 小論文2	・小論文の基本的な構成が理解できる。 ・小論文の基本構成を分析し、より効果的な論旨の進行を考案できる。	・小論文の基本的な構成とその役割	・興味のあるトピックを一つ選び、そのトピックに関する文献や情報を調査し、小論文の下書きを作成する。
第6講	対面授業 小論文3	・自分の考え、意見を筋道立てて説明することができる。	・効果的な書き出しの文と結びの文 ・読みやすい文章の構築方法 ・一貫性のある論証の進め方	・小論文の草稿を書く。 ・小論文の草稿をピアレビューに出す。
第7講	対面授業 小論文4	・他者の論旨や意見を客観的に評価できる。 ・他者の小論文を評価し、正確に伝えるとともに、自身の小論文作成に応用できる。	・ピアレビューの方法 ・効果的なフィードバックの与え方	・他の受講生の小論文の論点や根拠を分析し、それに対する意見や評価をまとめる。 ・受け取ったフィードバックをもとに、自分の小論文を改善する。
第8講	第2課 話してみよう	・自分をアピールする自己紹介ができる。 ・他者の自己紹介を分析することによって、効果的な	・自己アピールとは何か ・自己アピールの重要性と目	・自分の強みやスキル、経験をリストアップし、それをもとに

		自己アピールの要素や方法を探し出すことができる。	的 ・強みやスキルの自己分析方法 ・受講生同士で原稿を読み、改善点などをコメントする	自己アピール文を 900 字程度で書く。 ・他の受講生の自己アピール文を読み、改善点などをコメントする。 ・他の受講生の自己紹介文を読み、ルーブリック評価を行う。
第 9 講	対面授業 第 2 課 話してみよう	・聞き手や読み手を分析し、効果的な自己アピールを行うことができる。	・話す、書く場面での自己アピールのポイント ・聞き手や読み手の視点を考慮したアピール方法	・他の受講生の自己アピールに対して、その内容の強みや改善点を分析し、具体的な提案や意見を述べる。
第 10 講	学術的文章の書き方	・学術的文章と文学的文章の違いが理解できる。 ・小論文、レポート、論文の違いが理解できる。 ・文学的文章、学術的文章、小論文、レポート、論文の特徴や要点を分析することができる。	・学術的文章と文学的文章の違いとその特徴 ・小論文とレポート・論文の違いとその特徴 ・レポートと論文の違いとその特徴	・興味あるトピックを一つ選び、自由に作文する ・同じトピックを学術的文章で書くにはどうすればよいかを分析、研究史、簡単なレポートを作成する。
第 11 講	第 5 課 分析と考察をしよう	・グラフや表について、正しく理解することができる。 ・データを根拠にして、結論を客観的に述べるこ	・グラフや表について理解する。 ・グラフや表について数値を	・第 5 課 I のステップ 2 の問題から最低 2 問説明する。 ・第 5 課 I のステップ 3 の問

		<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データをもとに、新しい仮説や考察を生み出すことができる。</li> </ul>	<p>入れて客観的に説明する。</p>	<p>題から最低2問説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられたデータやグラフを用いて、事実や傾向を分析し、その結果をもとに簡単なレポートを作成する。</li> </ul>
第12講	レポート・論文の書き方1 リサーチと情報収集の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチと情報収集を行うことができる。</li> <li>・信頼性のある情報源を見分けることができる。</li> <li>・収集した情報をもとに、新しい研究テーマや仮説を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的なリサーチ方法</li> <li>・信頼性のある情報源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあるトピックに関する最新の研究や文献を調査し、その中から主要な論点や議論を抽出する。</li> </ul>
第13講	レポート・論文の書き方2 論点の設定と論証の技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や知識をもとに、新しい論点や視点を創出できる。</li> <li>・複数の情報源やデータを統合して、強固に論証することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な論点の設定</li> <li>・論証の構築：データや事実の提示、論拠の提示、結論の導き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トピックに関する既存の意見や論文を分析し、それらの中から新しい視点や論点を提案する。</li> </ul>
第14講	レポート・論文の書き方3 引用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる情報源からの情報を分析し、適切な引用方法を選択できる。</li> <li>・引用された情報を適切に評価し、その情報が論証にどれほど貢献するかを判断できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接引用、間接引用の仕方</li> <li>・参考文献の書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任意のトピックについて、適切に引用をしながら、論の展開をする。</li> <li>・形式を整えたレポートを作成する。</li> </ul>
第15講	レポート・論文の書き方4 総まとめとフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや論文の構造や内容を総合的に評価し、その強みや弱みを明確に認識できる。</li> <li>・他者の意見やフィードバックを受け入れ、自らの論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の受講生のレポートを読み、フィードバックを提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の受講生のレポートを詳細に分析し、その論点や論拠、構成について評価や提案をま</li> </ul>

		証をより高いレベルに再構築することができる。		とめる。 ・自らもフィードバックを受けて、改善したレポートを作成する。
--	--	------------------------	--	--